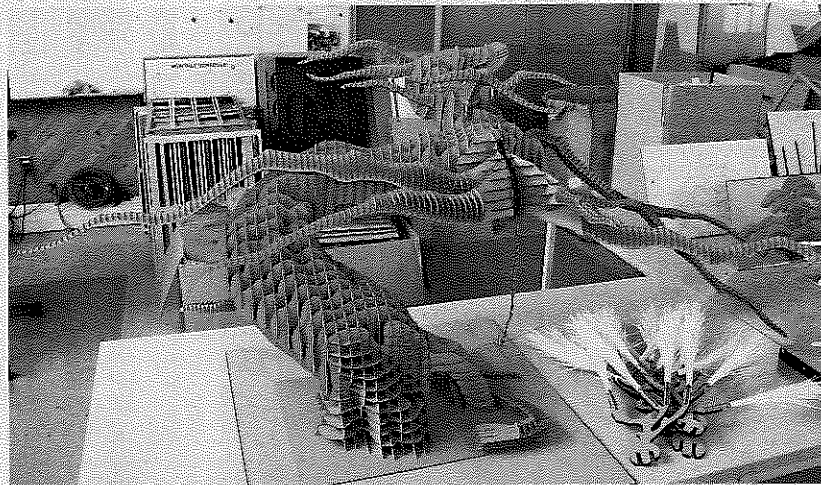


来月20日「豊後ノ国 府内薪能」

# おおいた大茶会 舞台に立体の老松



④ミニチュア模型と原寸大の部分模型  
⑤松岡勇樹社長と国東市安岐町の国東時間

## 「国東時間」が作品制作 創立20年の集大成に

段ボール製クラフトの製造販売を手掛ける国東市安岐町の「国東時間」は、今秋の国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭のリーディング事業「豊後ノ国 府内薪能」(10月20日・大分市)の舞台で使われる老松を立体造形作品として制作する。15日、プロジェクト成功を祈って同社で神事があった。

きっかけは4年前。平和市民公園能楽堂(大分市)の担当者へ模型制作の技術を使って立体的な老松を作ってほしいと依頼され、構想を練っていた。5月に国文祭で使われることが正式

きつかけは4年前。平和市民公園能楽堂(大分市)の担当者へ模型制作の技術を使って立体的な老松を作ってほしいと依頼され、構想を練っていた。5月に国文祭で使われることが正式決定した。モデルは能楽堂の舞台に描かれた老松。「時間樹」と名付け、7月から制作に着手した。幹と枝の部分は木の繊維を原料とした板(MDF)に杉材を重ねた部品2千個を組み合わせて作る。松葉は型抜きした和紙でユニットを作って表現する。

既にミニチュア模型、原寸大の部分模型を完成させた。完成品は高さ約2・5m、幅約5m、奥行き約4mになる予定。同社は今年、創立20年を迎え、社名をアキ工作社から変更した。松岡勇樹社長(55)は「今までで最も難易度の高い仕事になると思うが、20年間の集大成として力を集約して取り組みたい」と話した。神事には関係者ら約15人が出席。春日神社(大分市)の山本龍司禰宣が祝詞を読み上げ、松岡社長らが玉串をささげた。

(広瀬悠一)



つた雑草を取り除く参加者

筑後川の水源地区保全へ 日田、福岡の住民 中津江村で下刈り 筑後川の上・下流域の住民らが協力して水源地の森林保全活動に取り組む「200海里の森づくり」が日田市中津江村合瀬の市有林であった。中津江村地球財団や日田、福岡、大川各市などをつくる実行委員会(赤星仁一郎委員長)が主催。活動には県の森林環境税などを活用している。1991年の台風による山林被害をきっかけに2000年から毎年、植樹や下刈り作業をしている。3市の森林ボランティア、関係団体から約250人が参加。サクラやモミジ、アオダモを植樹した柿ノ谷地区の約1・5haで作業した。雨が降る中、長い鎌を

避難場所に集まった市民

めたい」と話した。米販売を



日田市での販売を企画